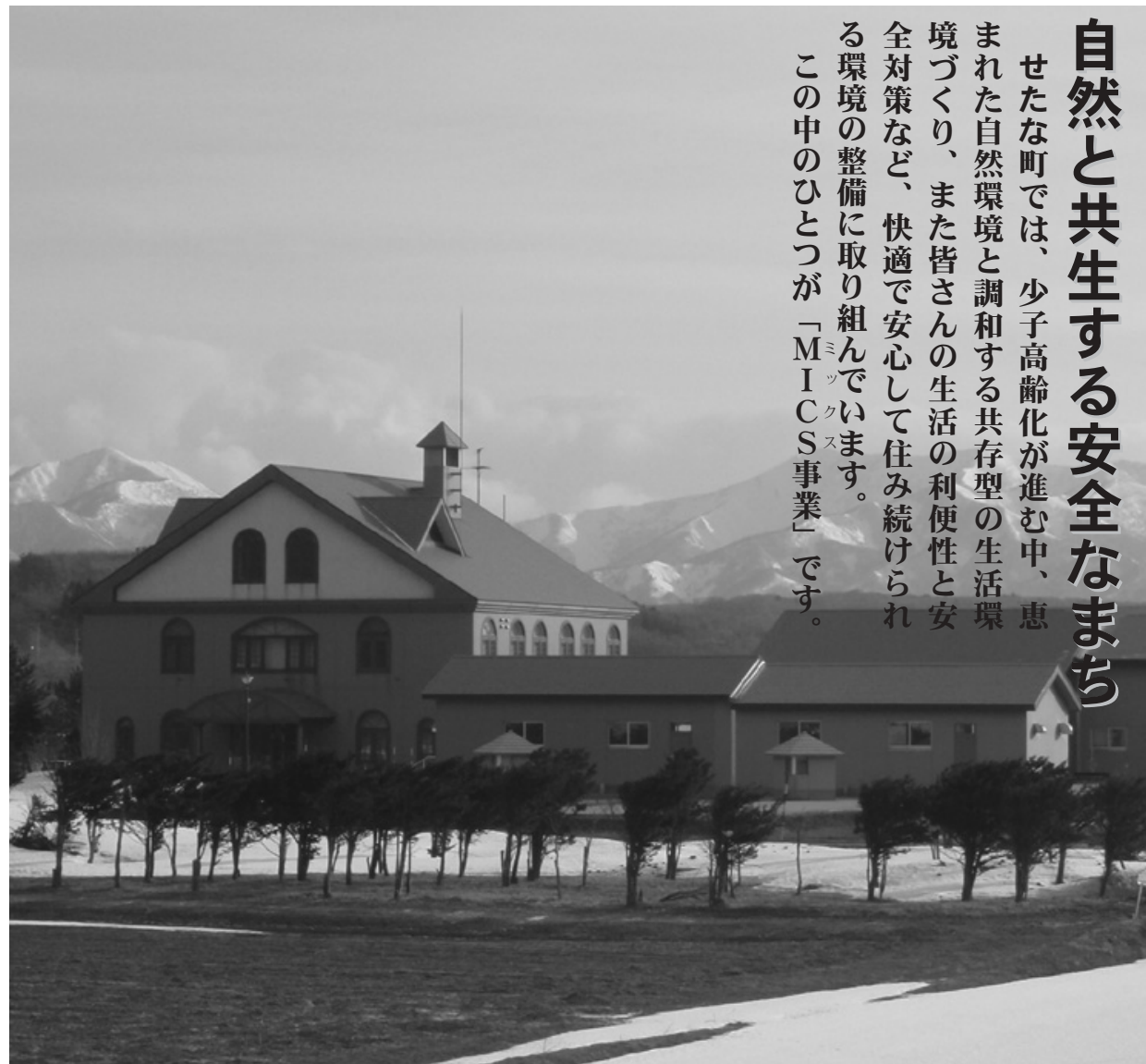


MICS処理施設がスタートしました。

自然と共生する安全なまち

せたな町では、少子高齢化が進む中、恵まれた自然環境と調和する共存型の生活環境づくり、また皆さんの生活の利便性と安全対策など、快適で安心して住み続けられる環境の整備に取り組んでいます。
この中のひとつが「MICS事業」です。



◆し尿等の処理について

せたな町のし尿等の処理は、公共下水道を利用できる区域に住んでいる、また漁業集落排水を利用できる区域に住んでいる皆さんはそれぞれの施設を利用し処理されています。
この地区以外に住んでいる皆さんの排出されるし尿、合併浄化槽汚泥などについては、せたな町と今金町で構成している北部松山衛生センター組合し尿処理施設で共同処理されています。

※公共下水道の利用区域
各区の市街地区
※漁業集落排水の利用区域
太田地区、太櫓地区

◆有効な処理方法を検討

北部松山衛生センター組合し尿処理施設は、平成6年、施設の使用を開始しました。
13年が経過した平成19年、公共下水道の水洗化率向上

に伴い、し尿等の搬入量が減少し、し尿処理施設の最低処理可能量の目安を下回ることになり、処理する経費の単価が高くなってきたため、処理方法について検討することになりました。
北部松山衛生センター組合し尿処理施設の更新などを考え、建設するための費用や維持管理の費用など、いろいろな方向から検討した結果、せたな町と今金町がそれぞれ所有する下水処理場を有効活用した、MICS事業（汚水処理施設共同整備事業）で処理することが効果的であるとの結論になりました。

※MICS事業

（汚水処理施設共同整備事業）
類似している汚水処理施設の共同利用を目的とし、整備を行う事業。

せたな町では、北檜山下水処理場と、し尿処理施設を併設しました。

◆MICS事業の実施

せたな町には、北檜山下水処理場、せたなクリーンセンター、大成浄化センターの3カ所の下水処理場があります。

しかし、この3カ所でのMICS事業実施は経済的には無いため、一番規模の大きい北檜山下水処理場に施設を建設することとしました。

平成20年度より事業を進め、平成21年度末には、北部松山衛生センター組合し尿処理施設の運転については停止しました。

そのため、MICS処理施設建設中の平成22年・23年

の2年間はし尿、浄化槽汚泥を、八雲町にある山越郡衛生処理組合（長万部町、八雲町の構成2町）に委託して処理をしていました。

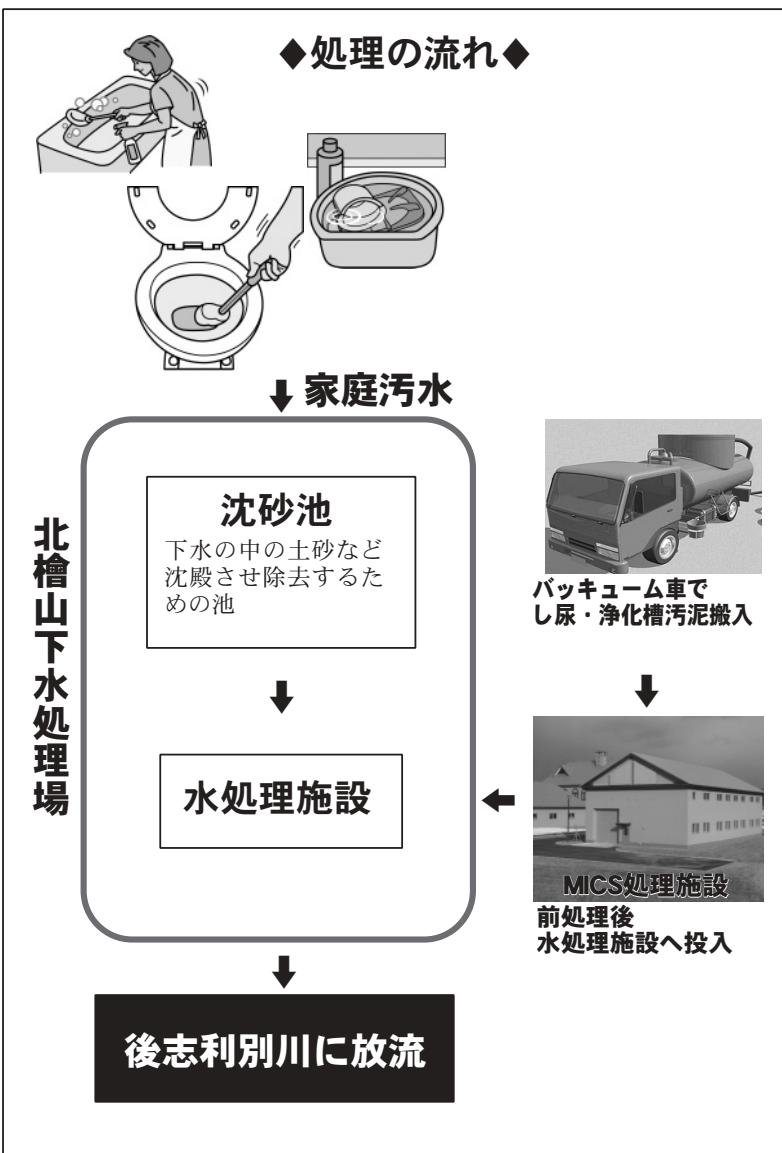
◆MICS事業の費用

MICS事業の総事業費は、5億8千195万5千円。この総額費用に対し社会資本整備総合交付金（国土交通省）、循環型社会形成推進交付金（環境省）等の補助制度を活用した結果、合併特例債等の起債を除き、町からは3千623万5千円の支出で建設することができました。

◆MICS事業のメリット

北檜山下水処理場と、し尿処理施設を併設した効果として、し尿、浄化槽等汚泥の処理する経費が半分以下に抑えることができました。

し尿汲み取り手数料は、3月まで127円12銭だったのが、4月から6円70銭に値下げとなりました。



◆落成式

4月11日、この日は雨の降る寒い日となり、ふれあいプラザでの式典の後、引き続きテープカットも行われました。

町内会連絡協議会会長など関係者約40人が出席し、落成式終了後は施設に移動。現地で担当職員から施設内の説明がありました。

今後も生活環境の向上のため、町民皆様のご協力をいただきながら進めていきます。



ふれあいプラザで行われたテープカット



落成式終了後の施設見学のようす